

平成30年度 美郷町立美郷北学園 学校関係者評価書										評定 4:期待以上である 3:ほぼ期待どおりである 2:やや期待を下回る 1:改善を要する				
教育目標「ふるさとを愛し、心豊かに健康で、自ら学び将来への夢や希望をもつ児童生徒の育成」														
めざす生徒像														
○ 心優しく、自信と誇りをもつ児童生徒 やさしく 徳														
○ 夢や希望を抱き、自ら学び続ける児童生徒 かしこく 知														
○ 礼儀正しく、心身ともにたくましい児童生徒 たくましく 体														
項 目		手段・ゴールイメージ	方策・手立て	アンケート結果 肯定的な解答の割合			現 状	自己評価		学 校 関 係 者 評 価 委 員 の 評 価				
				児童生徒	保護者	教師				意 見 等	評 価			
重点実施事項 1	自立の基礎としてのキャリア教育の確立	① 働くことの意義や将来の生き方を考える場の提供,情報発信	美郷科を中心とした総合的な学習の時間、特別活動等を中心に、教科等を位置付けた体系的・横断的なキャリア教育プランに基づいて、11年間を見通したキャリア教育を推進する。	91%	87%	96%	美郷科・北郷科を中心に全教育活動において、計画的に学ぶ意義や働くことの素晴らしさを体感させることができた。また、11年間のキャリア教育ロードマップを活用しながら、「自立心・進路意識・生き方追究」を高める手立ての工夫と検証を重ねた。高校説明会やようこそ先輩、職場体験学習などの充実にも努めた。	4	4	○ 年間を通して、よくなされていると思う。 ○ 家庭で、職場体験の様子を子どもの方から、話しかけてくれた。 ○ カリキュラムによる成果が上がっていると思う。	4			
		② 家庭での進路に関する積極的な会話	美郷科・北郷科を中心に全教育活動で、働くことの意味や素晴らしさ、困難さを体感させ、そのことを家庭で話題にしたり、進路に関する話を行う機会を作るなどして積極的な家庭での会話を促す。	75%	74%	60%	自然体験、地域の方々とのふれあい、職場体験、子ども議会の様子などを、学校便りや学級懇談、玄関TVモニターなどで家庭に発信し、家庭での会話のきっかけとなるようにした。	3						
重点実施事項 2	自立の基礎としての学力向上の推進	① わかる・できる授業を通した学習内容の定着	小中一貫を生かした教科等の指導体制、個別指導、英会話科の充実を図り、児童生徒が「わかること・できること」を実感できるような学習指導に努める。	94%	92%	86%	日頃の授業において、ジャスト3(教員の授業における約束事)の徹底を図った。また、中学校の専門性を生かして、中学部教員による小学部への一部乗り入れ授業を実施した。また、朝学習やサマースクールでは小中学部教職員のそれぞれの校種において互いにサポートをし、学力の定着を図った。	4	3	○ 読むことと話すことは、リンクしていると思う。発言する力をのばしてほしい。 ○ 発表する力を育成していただけると、ありがたい。 ○ 新聞を読むことが、大事だと思う。子ども新聞を活用するのいいと思う。	3			
		② 思いや考えを伝える(表現できる)力の育成	授業や各集会、学校行事などにおいて、自分で考えたこと、思ったことなどを相手にわかりやすく表現することを心掛ける。	73%	79%	52%	学級ではきちんと発表できる。しかし、学年が上がるにつれ、集会時に個人に意見を求められたとき、自分の思いを言えない児童生徒が多い。集会時に勇気を出して意見を言うことの大切さを話し、それができた時はタイムリーに称賛していくことで、少しずつ改善していきたい。	3						
		③ 家庭学習の習慣化	各種テストの分析や、個人の取組反省などを学級通信や学級懇談で伝え、家庭と連携しながら、家庭学習の充実を図る。	78%	71%	57%	各教科において、諸テストの分析を行い、実態を確認しながら授業改善を行った。学級通信や学級懇談等で家庭で取り組むべき課題を確認したが、家庭学習の時間、内容ともに不十分で、なかなか家庭学習の定着に繋がらなかった。継続指導が必要である。	3						
		④ 読書活動の充実	学校全体を読書に興味をもつ雰囲気にする。地域の方々の協力をもらい、読み聞かせの充実を図る。読書すごろくや読書運動会などを実施する。	67%	40%	40%	校内のいたるところに本を置き、紹介文を添えたり、教師や児童生徒の本の感想を掲示したりしながら、読書活動への意欲化が図られた。また、地域ボランティアの方々との読み聞かせを実施し、興味を深めた。読書すごろくや読書運動会、家読の日などの取組を通して、だんだんと読書への関心は高まっている。	3						
		⑤ 一人一人を大切にした特別支援教育体制づくり	特別支援教育の視点を重視し個に応じた支援を工夫し、一人一人の実態に応じた学習指導をする。		97%	100%	一人一人の実態を把握し、それに応じた学習指導方法の工夫・改善、個に応じた支援に努めた。具体的には、子ども一人一人の理解度を確保すること、全員に個人思考の時間、自分の考えをもつ場を確保し、堂々と発表する機会を作ることを全教職員で共通理解し、実行に努めた。	4						
重点実施事項 3	自立の基礎としてのたくましさの育成	① 元気で気持ちの良いあいさつの励行	各集会等であいさつの大切さやポイントについて、児童生徒会が中心となり発表したり、活動したりする。また、登下校や日常の学校生活の中など場面場面で指導していく。	89%	61%	52%	児童生徒会が中心となりあいさつ運動やあいさつリレーに取り組むことにより、児童生徒の意識の向上を図った。一人の時や日常の何気ない場面、叱咤の時などに自分からあいさつできない児童生徒が多いが、集会などでは、少しずつ自分の意見を言える児童生徒が増えている。	3	3	○ 地域の中学生が、以前に比べてあいさつをするようになった。 ○ 学校で出来ていることが、家庭で出ていないのはなぜか。帰宅すると、ホッとするのでは。 ○ いじめは、先生のいない時間(休み時間など)におこると思う。先生達の見守りをお願いしたい。 ○ あいさつは、基本は家庭で習慣づけることが大事だと思う。	3			
		② 机や棚、トイレのスリッパ等身の周りの整理整頓の徹底	朝の会や帰りの会、学級活動、ブロック別集会等で、身の回りの整理整頓について確認する。	90%	44%	76%	学校での机や棚など、自分の身の回りの整理整頓に比べ、家庭での状況はあまりよくなく、不満をもっている保護者が多い。学校では、トイレのスリッパも、ほぼきちんと並んでいる。学校できていることを家庭でもやることの大切さをしっかりと話していく必要がある。	3						
		③ 異学年の交流	異年齢集団による体験的な活動を積極的に取り入れ、自主性を育てるとともに、コミュニケーション能力や他者への思いやりの心や感謝の心を育てる。	88%	84%	95%	地区中体連大会の推戴式では、全学園生が参加し、選手以外の学園生でエールを送った。また、全校で遊ぶ日では、縦割り班でミニ駅伝や陣取りを行い、異年齢集団による交流に努めた。	4						
		④ 教師と児童生徒との好ましい関係作り	定期的に全児童生徒に「きららアンケート」を実施し、悩みのある児童生徒をアンテナを高くして、早期に発見する。また、廊下や運動場などの何気ない会話を大切にし、教育相談の充実にも努める。	94%	88%	81%	月に1回、全児童生徒を対象に「きららアンケート」を実施し、その結果をもとにいじめ不登校対策委員会を開き、全職員で共通理解を図り、対策を協議した。その後、対応した職員や生徒指導主事から経過を聞きながら、全教職員で小さなサインを見逃さないように見守ることを確認した。	4						
		⑤ ブロック性を生かしたリーダー制の育成	後期ブロックは児童・生徒会の企画・運営、中期ブロックは運営と前期ブロックへの支援、前期ブロックは協力と参加など、各ブロックの活動を通して、リーダー性を育てていく。	83%	83%	52%	各ブロックとも、集会や行事等を通して、リーダー育成を図った。ブロック別集会を効果的に活用し、司会や発表の経験を積ませるなど、リーダー育成の機会を意図的に設けた。	3						
重点実施事項 4	自立の基礎としての体力向上と健康・安全教育の充実	① 早寝早起き朝ごはんなど規則正しい生活の推進	弁当の日の取組を中心に食育に取り組む。さらに、学校保健委員会を活用しながら、保護者と連携した健康・安全教育の充実にも努める。	88%	87%	95%	弁当の日を実施し、食育の推進を図った。また、PTAと連携しながら学校保健委員会、巡回バトロール、朝の立ち番指導、風水害避難訓練などを行い、学校安全に努めた。さらに、給食感謝集会で、調理員の仕事を紹介したり、地域の生産者の講話を聞いたりして食に関する意識を高めた。携帯電話やスマートフォンに関する児童生徒の実態について、学校通信や学級懇談で保護者への啓発を行った。	4	4	○ 学校からの啓発で、改善がみられたのは、よかったと思う。 ○ 今後は、先生方の苦労も増えるのではないかな。	4			
		② 意欲的な運動への取組と体力の向上	中学部の体育の教員による専門性を生かした授業や体力向上プランに基づいた体育指導の充実を図る。また、業間活動や部活動前のランニングなどを通して、日常的に体を使った遊びや運動に取り組ませる工夫をする。	93%	84%	95%	体育科教育の工夫・改善に努めた。また、小学部は業間の時間に持久走やなわとび運動を行ったり、中学部は部活動前に持久走に取り組んだりしながら、日常的な運動の充実を図った。	4						
重点実施事項 5	自立の基礎としての家庭及び地域との連携	① 地域行事への積極的参加	職員の地域行事への積極的な参加を通して、相互の連携と協力体制の強化に努める。		89%	62%	各地区の諸行事、祭り、レクリエーション等に多くの学校職員が参加し交流を図った。これからも理解を深め合い、より良い協力体制を構築していきたい。	3	4	○ 本校は、人数が少ないので、全員参加型のPTA活動にならざるをえないと思う。 ○ PTA活動には、保護者も先生方も、本当に一生懸命取り組んでいただいた。いろんな行事で、学校と連携しながら、いい取組ができた。 ○ 先生方には、できるだけ地域に参加していただいて、いろいろな方と交流していただけると、うれしい。地域の方もいろいろな先生方のいいところを知ることができる。	4			
		② 学校通信、学級通信やホームページを通しての積極的な情報発信	学校通信を定期的に発行し、回覧板で地域の方にも閲覧していただく。学級通信を定期的に発行し、事務室前に全学級分掲示する。ホームページの充実にも努める。		96%	100%	学校通信や学級通信、ホームページを通して、学校の取組や児童生徒の様子などについて、保護者や地域の方々に積極的に情報発信するように努めた。	4						
		③ P T A活動における地域や家庭との協力関係	PTAミニバレーやふれあい奉仕作業など様々なPTA活動を学校と地域・家庭が協力して運営する。		93%	95%	PTA運営委員会を軸にして、様々なPTA活動に取り組んだ。具体的にはPTAミニバレー、ふれあい奉仕作業、運動会、学校保健委員会、ロードレース大会など、各専門部を中心にできるだけたくさんの保護者が関わられるようにした。PTA運営委員会の出席率もよく、欠会する保護者はほとんどいなかった。	4						

